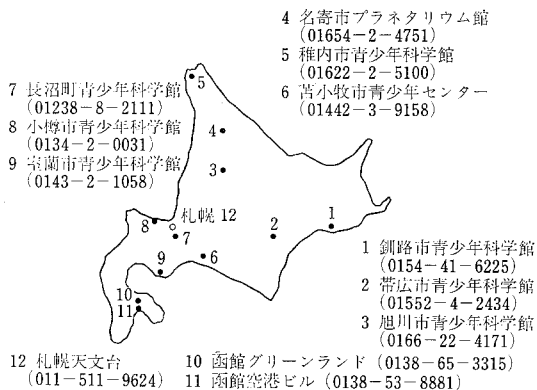


◇ 12月の天文暦 ◇

日時	記	事
3 10	朔	
4 16	海王星	合
8 3	大雪	(太陽黄経 255°)
9 9	火星	地球最近
10 24	上弦	
11 12	木星	留
12 4	月	最遠
15 23	火星	衝
18 24	望	
22 21	冬至	(太陽黄経 270°)
25 24	下弦	
26 13	月	最近



☆ 天文教育施設めぐり (11) ☆

北海道地区

北海道のプラネタリウムの施設は、11ヶ所〔函館グリーンランド (MS 8) と函館空港ビルディング (M 06 R) は民間運営〕であるが、公立の施設の内、名寄 (S 3) と長沼 (M 06 R) を除く、釧路 (M 1) ・帯広 (M 1) ・旭川 (ツアィス) ・稚内 (GX 10) ・苫小牧 (S 3) ・小樽 (S 3) ・室蘭 (M 1) の施設は、プラネタリウムのほかに、展示室と実験実習室を備えている。

天文台の施設は、釧路 (20 cm 屈) ・帯広 (20 cm 反) 旭川 (15 cm 屈) ・稚内 (20 cm 屈) ・苫小牧 (15 cm 屈) ・小樽 (15 cm 屈) と札幌 (20 cm 屈) の7ヶ所にある。

これらの施設は、当該地域の人達ばかりでなく、他地域の人達にも広く、見学・学習・研究等の場として利用されている。各施設は、それぞれの特色をもって運営されているが、各施設とも、案内書やパンフレット、解説書等の発行、各種の学習会、講座、グループ活動等は、共通的に実施されている。紙数の関係で、いま、その詳細を述べることは出来ないが、道東地区にある釧路市青

少年科学館を例にして紹介すると、この館の場合は、プラネタリウムは、一般向けは平日は4回 (団体の場合はその都度) 投映しているが、この間を縫って、児童・生徒対象の学習投映、小中学生のサイエンスクラブや高校生天文クラブ、幼児、婦人等を対象とする投映が行なわれている。天文台は、一般向けと観測者向けに1ヶ月に4~5回開放されている。事業としては (天文関係) 一般向け天体観望会、観測者向け星の会、小学生向けプラネタリウム教室、中学生向け天文クラブ等があり、天文気象トピックス、天文資料、天体観測の手引、プラネタリウム学習指導案も発行されている。

北海道は本州などと気候的に異り、いわゆる梅雨の現象がほとんど見られない。しかし冬の期間は長く寒さも一段ときびしい。このような環境にあって自然一特に天文観察は大きな困難をとまなう。学校教育においても冬期の天文観察は単に困難というだけでなく、全く不可能に近いといえる。このような自然環境下にある北海道での、天文教育施設の負う責任は一般教養、学校教育に対して非常に大きいものがあるといえる。各施設は、それぞれその責任をその活動により十分にはたしている。

(麻生伸一)

